

資料 3

ヒヤリ・ハット事例報告の例

重大公務災害の予兆かもしれない「ヒヤリ・ハット」体験は、公務災害発生防止のための貴重な情報源である。

「ヒヤリ・ハット」体験を報告させ、その情報を全員に周知・共有化させることにより、消防団員個人の体験を全消防団員のその後の公務災害防止に生かすことが簡単にできて、しかも非常に有効である。

「ヒヤリ・ハット」の事例報告については、これが消防団員個人の責任の追及を目的とするものではないことを周知・理解させることがたいせつである。

事例の報告先は、直接の上司とは別の者に定めておいたほうが報告する消防団員もやりやすい。

〈軽傷災害、ヒヤリ・ハット体験例〉

建物火災

ケース 1

国道沿いの住宅火災で、ホースを搬送して延長作業を行っているとき、他の部のホースに足をとられて転倒した。現場は暗く、路上には多数のホースが延長されていた。照明器具を消防車に積んでいたが、使用していなかった。

ケース 2

住宅火災で筒先を持って放水準備をしているとき、周りの音で耳が聞こえず、また経験不足で機関員を見ずに火もとばかりに気をとられていたため、送水されたのがわからず、筒先が暴れて転倒しそうになった。

ケース 3

住宅火災現場で、「中に人がいるかもしれない」との情報があり、玄関ドアをけ破ったときに空気が入り、小爆発が起こった。近くにいた経験者に「危ない!」と声をかけられ、とっさにしゃがんだので助かった。

ケース 4

空き家火災の消火活動中、対面注水を行っていたため、水圧によって壊れたかわらが、自分のほうに飛んできて当たりそうになった。

ケース 5

建物火災の現場付近の路上で通行車両の交通整理をしていたとき、夜の雨降りのなかで視界が悪く、安全誘導灯未携行、はっぴも黒色という悪条件が重なったため、何度も車にひかれそうになった。

軽傷災害、ヒヤリ・ハット

(様式例)

所 属	分 団	部	氏 名
い つ	年	月	日 () 午前・午後 時 分頃
ど こ で	どうしていた時		
軽傷、ヒヤリ・ハットした時のあらまし			

問題点

環境に問題が	設備器械に問題が	活動方法に問題が	自分自身に問題が
--------	----------	----------	----------

☐	☐	☐	☐
--------------------------	--------------------------	--------------------------	--------------------------

(該当項目にチェック)

こうしてほしい	心身分析	該当項目 ○をつけて下さい
---------	------	------------------

上司の助言	4 知らなかった 5 深く考えなかった 6 大丈夫だと思った
-------	--------------------------------------

自分はこうした	7 あわてていた 8 不愉快なことがあった 9 疲れていた
---------	-------------------------------------

上司の助言	10 無意識に手が動いた 11 やりにくかった (むずかかった) 12 からだのバランスをくずした
-------	--